

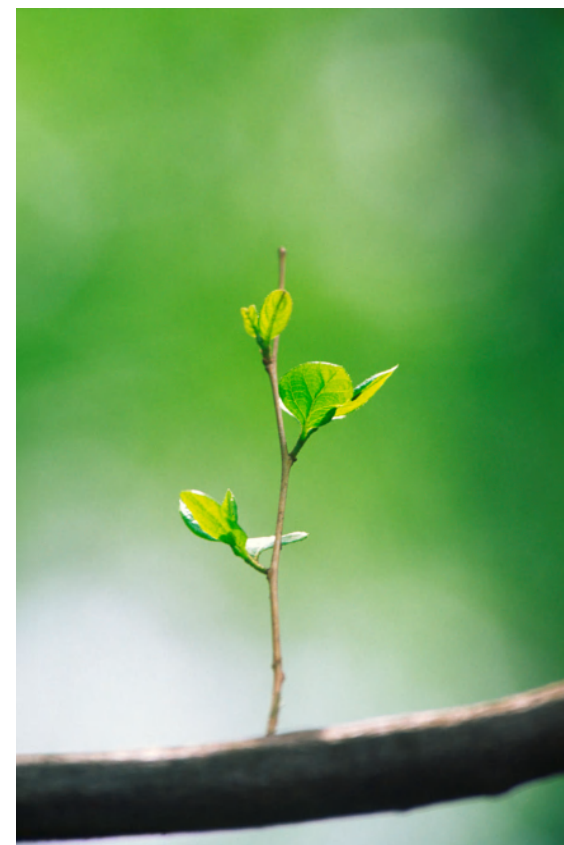
インマヌエル中目黒キリスト教会
2011年4月10日
聖日礼拝

主のご受難を偲び②

「大きな叫び声と涙」

ヘブル人への手紙5章1-10節

竿代 照夫 牧師



聖書朗読

新約聖書

ヘブル人への手紙5章1-10節

1 大祭司はみな、
人々の中から選ばれ、
神に仕える事がらについて
人々に代わる者として、
任命を受けたのです。
それは、罪のために、
ささげ物といけにえとを
ささげるためです。

- 2 彼は、
自分自身も弱さを
身にまもっているのもので、
無知な迷っている人々を
思いやることができるのです。
- 3 そしてまた、その弱さのゆえに、
民のためだけでなく、
自分のためにも、
罪のためのささげ物を
しなければなりません。

4 まただれでも、
この名誉は自分で
得るのではなく、
アロンのように
神に召されて受けるのです。

5 同様に、
キリストも大祭司となる栄誉を
自分で得られたのではなく、
彼に、
「あなたは、わたしの子。
きょう、
わたしがあなたを生んだ。」
と言われた方が、
それをお与えになったのです。

6 別の個所で、こうも言われます。
「あなたは、とこしえに、
メルキゼデクの位に等しい祭司
である。」

7 キリストは、
人としてこの世におられたとき、
自分を死から救うことのできる
方に向かって、
大きな叫び声と涙とをもって
祈りと願いをささげ、
そしてその敬虔のゆえに
聞き入れられました。

- 8 キリストは御子であられるのに、
お受けになった
多くの苦しみによって
従順を学び、
- 9 完全な者とされ、
彼に従うすべての人々に対して、
とこしえの救いを
与える者となり、

10 神によって、
メルキゼデクの位に等しい
大祭司と
となえられたのです。

説教

主のご受難を偲び②

「大きな叫び声と涙」

ヘブル人への手紙**5章1節-10節**

竿代 照夫 牧師

主テキスト：

「キリストは、
人としてこの世におられたとき、
自分を死から救うことのできる
方に向かって、
大きな叫び声と涙とをもって
祈りと願いをささげ、
そしてその敬虔のゆえに
聞き入れられました。」

(ヘブル5：7)

1. 5 : 1 - 10の流れ :

人々の罪を神に執り成す

大祭司の役割

2. キリストの祈り（7節）

- ・ 神が人となり給うた
その経験の中から
- ・ 死の恐れからの救いと
死への勝利を祈る
(ヨハネ 12 : 27 - 28)
- ・ 人間イエスの苦悩の表れとしての
「大いなる叫び声と涙」

- み父への信仰に基づく尊敬を
もって
- 祈りは答えられた

3. 苦しみという学課（8—10節）

- ・ 御子なのに「学ぶ」：
苦難は大祭司への必修科目
- ・ 自分が生贄となる苦しみ
- ・ 大祭司として完成された
- ・ 時間・場所・条件を超越した
完全な救い
- ・ 救いを受ける条件は、
キリストに従うこと

4. ゲッセマネにおける 「大いなる叫びと涙」 (マルコ14：32－36)

- ・ 祈りの場所：
「ゲッセマネ」 (油絞り)
- ・ 祈りの開始：「恐れともだえ」
- ・ 祈りの内容：
「杯を取り去り給え」
- ・ 戦いの後の平安：
「み心のままに」

おわりに

- ・ 私のために祈られた主に感謝
- ・ 私もイエスのように祈ろう